

三井化学グループの経営概況

—今後の事業展開—

2001年11月20日

三井化学株式会社

社長 中西宏幸

目次

I . 拡大・成長戦略

II . 今後の事業展開

II－1. 当社コア事業の強み

II－2. コア事業の更なる拡大・成長

個別事業紹介:フェノール

BPA

PTA

エラストマー

ウレタン

II－3. 新製品開発

目次

I . 拡大・成長戦略

II . 今後の事業展開

II-1. 当社コア事業の強み

II-2. コア事業の更なる拡大・成長

個別事業紹介:フェノール

BPA

PTA

エラストマー

ウレタン

II-3. 新製品開発

「世界の市場で存在感のある総合化学企業」への成長ストーリー

三井化学の目指す企業像

世界の市場で存在感のある総合化学企業

合併効果の早期
実現

ホップ

98-00

- ・さらなる拡大・成長
- ・連結経営体制の構築
- ・環境・安全・品質の確保

ステップ

01-03

21世紀の化学産業
におけるグローバル・
リーダーへ

ジャンプ

04-

「合併効果の早期実現」を目指した98-00中計は順調に進捗

- ◆ 重点化戦略
 - ・コア事業への経営資源集中
 - ・不採算事業からの撤退
 - ・構造問題を抱える事業の再構築
- ◆ グローバル戦略
 - ・フェノールコンプレックス(シンガポール)等での大型石化プロジェクト推進
- ◆ 新製品開発
 - ・アクセル21による新製品開発促進体制を構築
- ◆ 合併効果の推進
 - ・生産拠点(8工場体制→5工場体制)
 - ・R&D拠点の統合推進(袖ヶ浦センターに集約中)
 - ・人員計画の着実な達成
(下/97期首→00年度期末:12,115人→10,715人)
- ◆ グループ戦略
 - ・関係会社の整理・統合を推進

01 中計

—「三井化学グループの拡大・成長」を目指して—

1. 更なる選択と集中

◆ 事業の集中的拡大・成長

- ・ 石化・基礎化分野（フェノール、BPA、PTA）
- ・ 機能性材料分野（エラストマー、ウレタン）

◆ グローバル化

- ・ フェノール、BPA、PTA、エラストマー等のアジア展開

◆ 機能性材料分野の新製品拡大

- ・ 情報・通信分野
- ・ 生活・文化分野
- ・ 環境分野

2. 連結経営体制の確立

◆ グループの強化

◆ 連結経営基盤の強化

3. 環境・安全・品質の確保

◆ 環境・安全の推進

◆ 品質管理の徹底

目次

I. 拡大・成長戦略

II. 今後の事業展開

II-1. 当社コア事業の強み

II-2. コア事業の更なる拡大・成長

個別事業紹介:フェノール

BPA

PTA

エラストマー

ウレタン

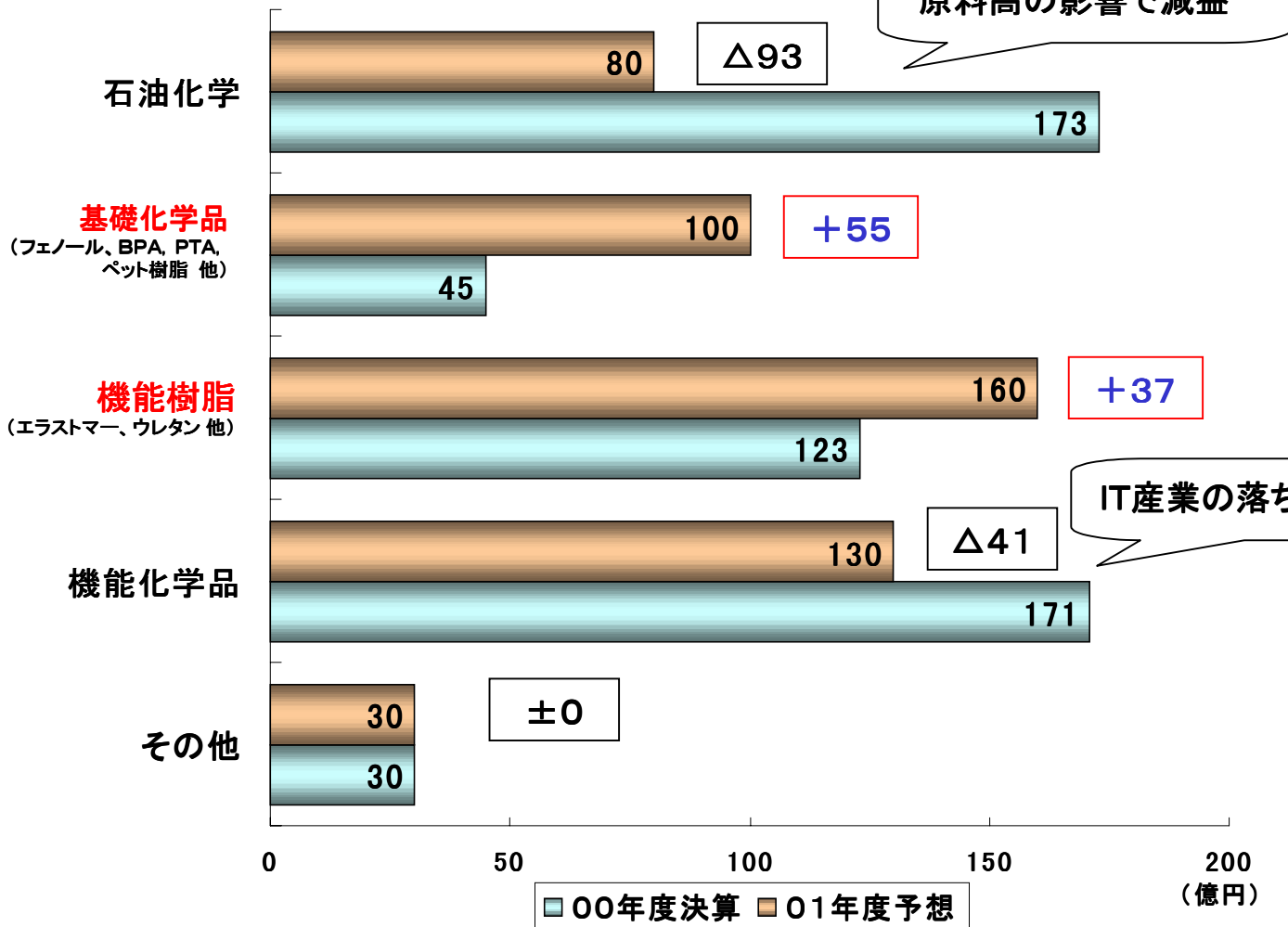
II-3. 新製品開発

Ⅱ-1. 当社コア事業の強み

基礎化学品と機能樹脂が増益

セグメント別の営業利益の増減

営業利益
00年度決算: 545億円
01年度予想: 500億円



当社コア事業の強み

◆アロマ系の強み

- ・ 品質とコスト競争力の優位性
- ・ アロマ製品の広がり(フェノール、BPA、PTA、ペット樹脂、ウレタン)

◆ポリマーサイエンスの強み

- ・ 世界最高の重合触媒技術
- ・ 触媒能力を最大限に発揮させる優れた合成樹脂製造技術
- ・ 顧客ニーズへの対応と、新規樹脂合成による他社品との差別化

◆コスト競争力のある生産体制

- ・ エチレンのコスト競争力は国内トップ
- ・ 更に東西一体運営(大阪石化100%子会社化、第2浮島石化の自社プラント化)によるコスト競争力強化

当社の主なコア事業のシェア

石化・基礎化学品

	アジア	日本
フェノール	1位	1位
ビスフェノールA	1位	1位
高純度テレフタル酸	3位	1位
ボトル用ペット樹脂	2位	1位
ポリエチレン	4位	2位*1
ポリプロピレン	3位	2位*1
ポリオレフィン計	4位	2位*1

* 1: 1位は日本ポリケム

青字はアロマ系を示す

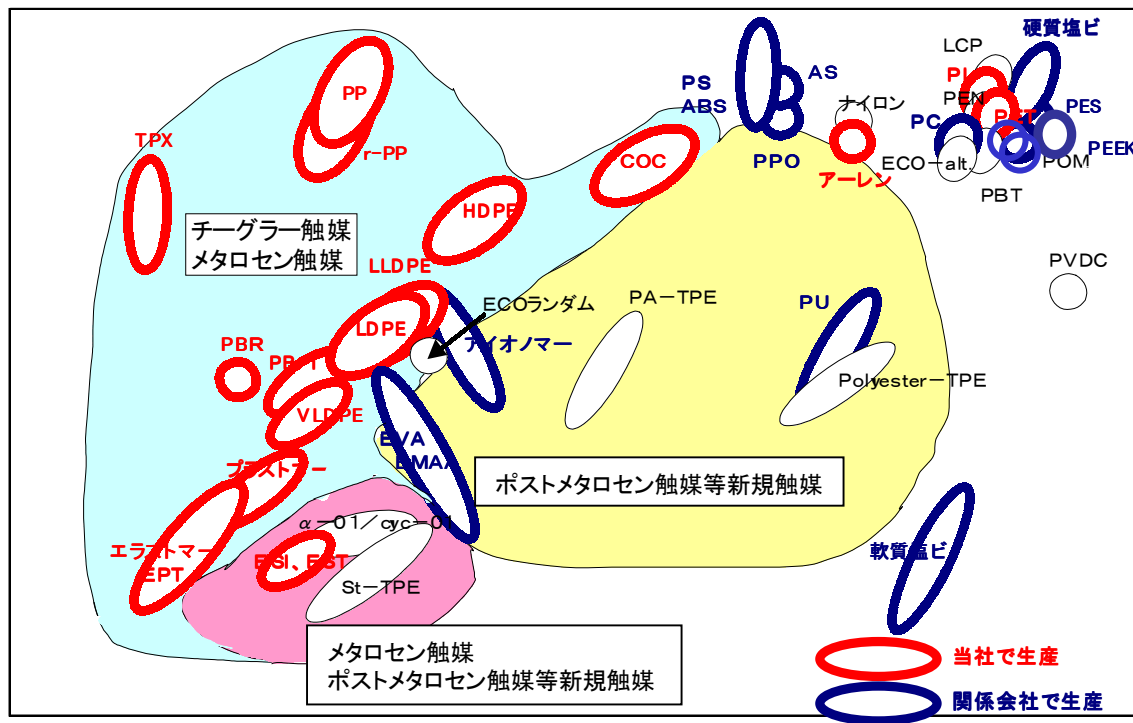
機能性材料

	アジア	日本
エラストマー(タフマー)	1位	1位
TDI	1位	1位
MDI	4位	3位*2
PPG	3位	1位

* 2: 1位は日本ポリウレタン、住友バイエルウレタン

当社のポリマーサイエンス

硬い
↑
柔らかい



- ◆ 柔らかい樹脂から硬い樹脂、軽い樹脂から重い樹脂と広範囲の合成樹脂を製造でき、顧客ニーズへの対応が可能
- ◆ 新たな触媒技術(例えばFI触媒等ポストメタロセン触媒)で、高機能を付与した新規ポリマーが合成でき、当社ポリマー領域が更に拡大

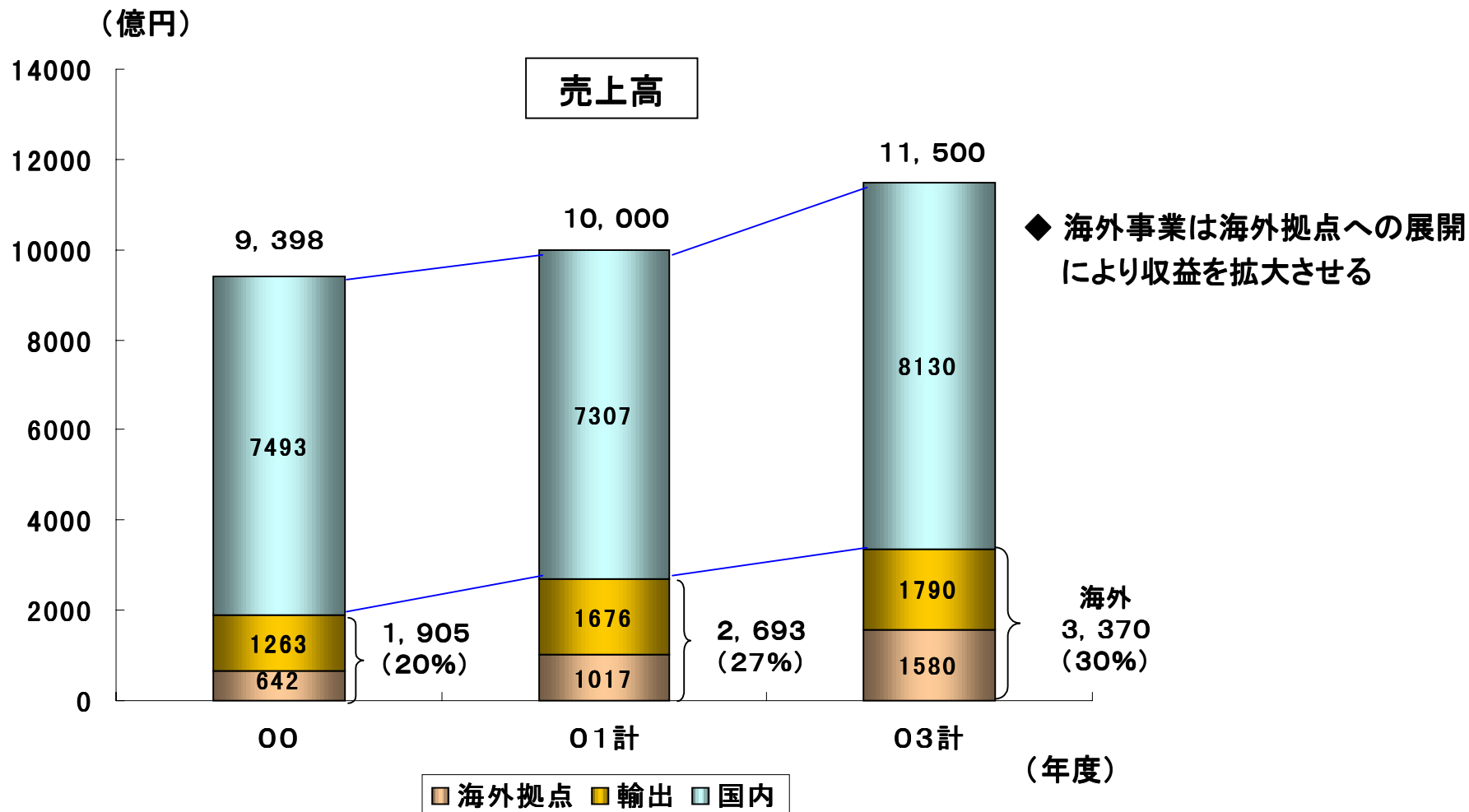
○ 当社で生産
○ 関係会社で生産

軽い → 重い

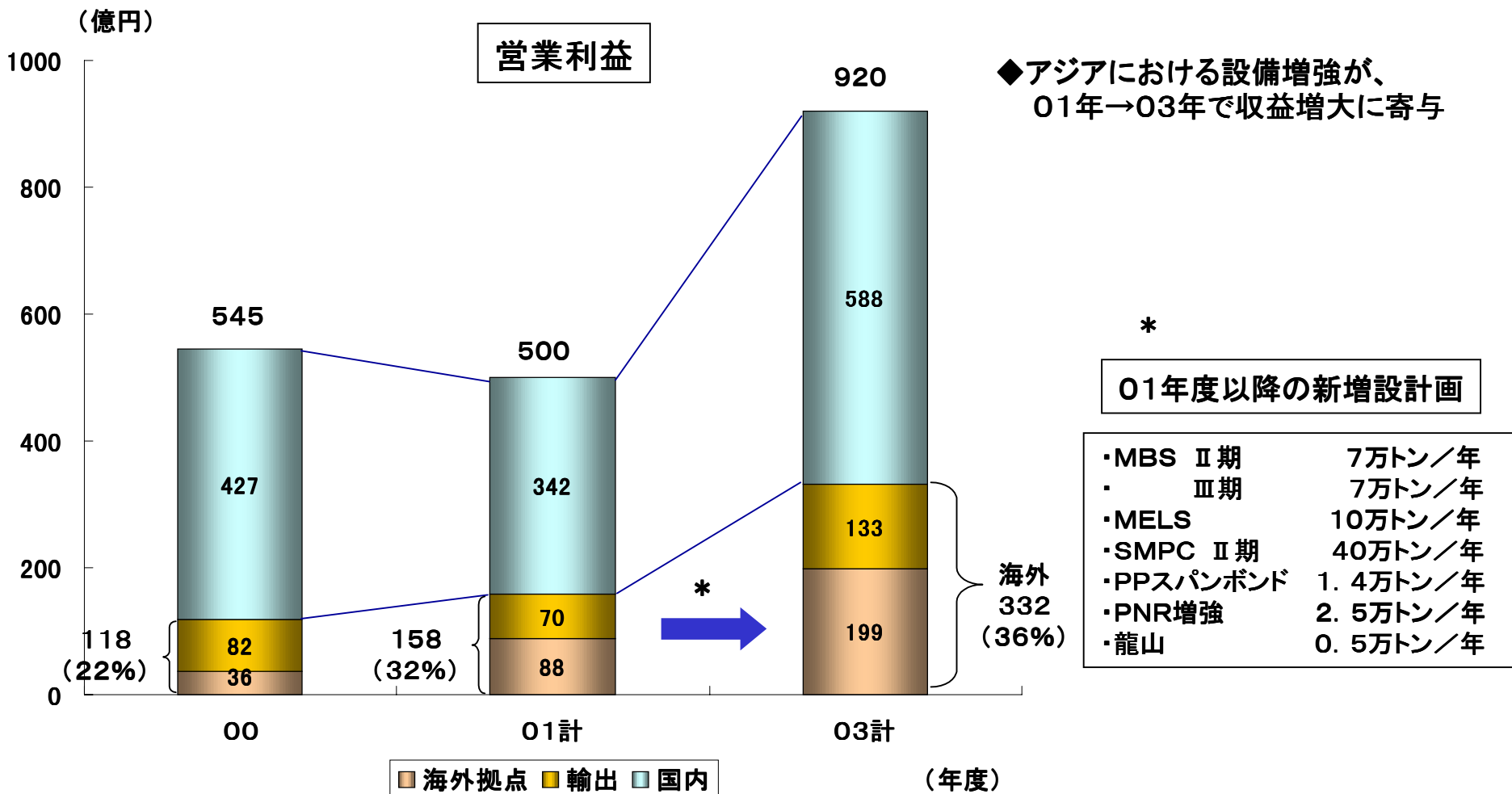
Ⅱ-2. コア事業の更なる拡大・成長

—主に海外展開を中心に—

海外事業が事業規模拡大を牽引



海外事業が収益の柱に成長



アジアで次々に立ち上がる海外生産拠点

● 石化・基礎化学品事業
● 機能性材料事業

韓国

PTA(SPC)

140万トン/年

アクリルアマイド(龍山)

0.7万トン/年

0.5万トン/年(02年)

MDI(錦湖)

5万トン/年

タイ

PTA(SMPC)

I期:40万トン/年(99年)

II期:40万トン/年(02年)

PPスパンボンド(MHM)

1.4万トン/年(03年)

シンガポール

フェノール(MPHS)

20万トン/年(01年)

BPA(MBS)

I期:7万トン/年(99年)

II期:7万トン/年(02年)

III期:7万トン/年(03年)

エラストマー(MELS)

10万トン/年(03年)

日本

フェノール: 50万トン/年

BPA: 21万トン/年

PTA: 65万トン/年

ペット樹脂: 17.3万トン/年

TDI:

17.5 → 23.5万トン/年(03年)

MDI: 6万トン/年

PPG: 13.5万トン/年

エラストマー: 10万トン/年

PPスパンボンド: 3.4万トン/年

インドネシア

PTA(AMI)

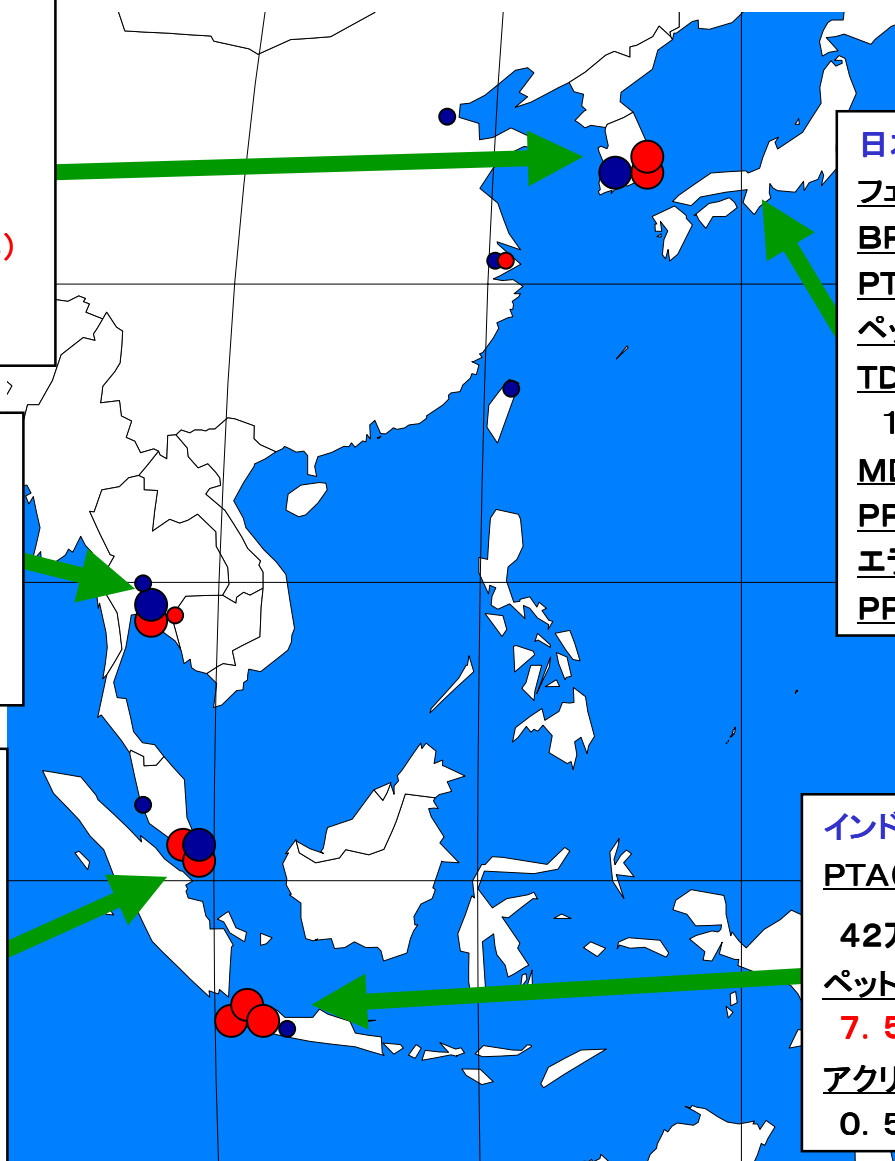
42万トン/年

ペット樹脂(PNR)

7.5万トン/年(01年)

アクリルアマイド(MEC)

0.5万トン/年

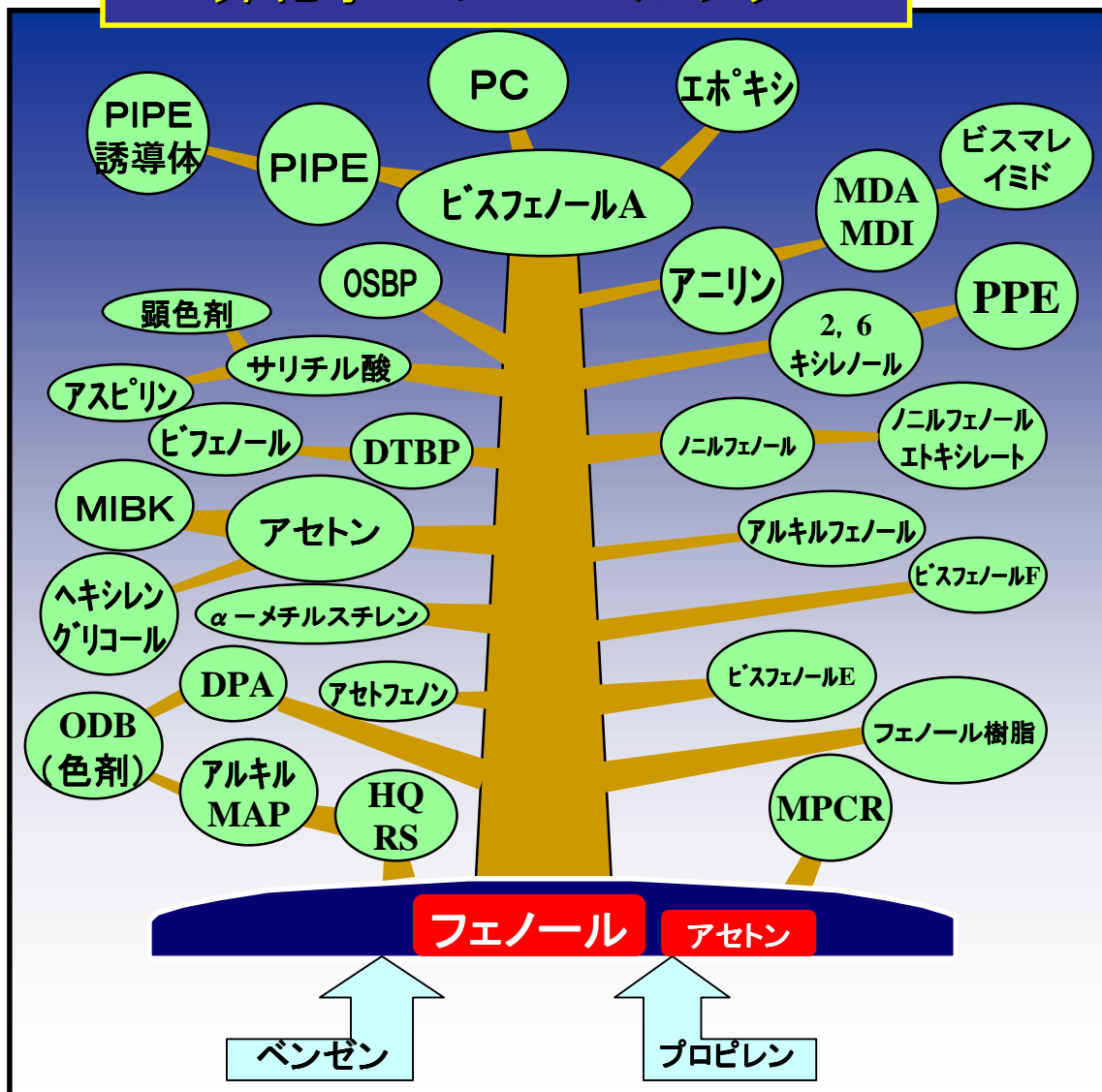


◆フェノール

アジアの需要の伸長に合わせたシンガポールでの展開でアジア市場を獲得する

誘導品との一貫戦略展開でフェノール系事業を強化・拡大する

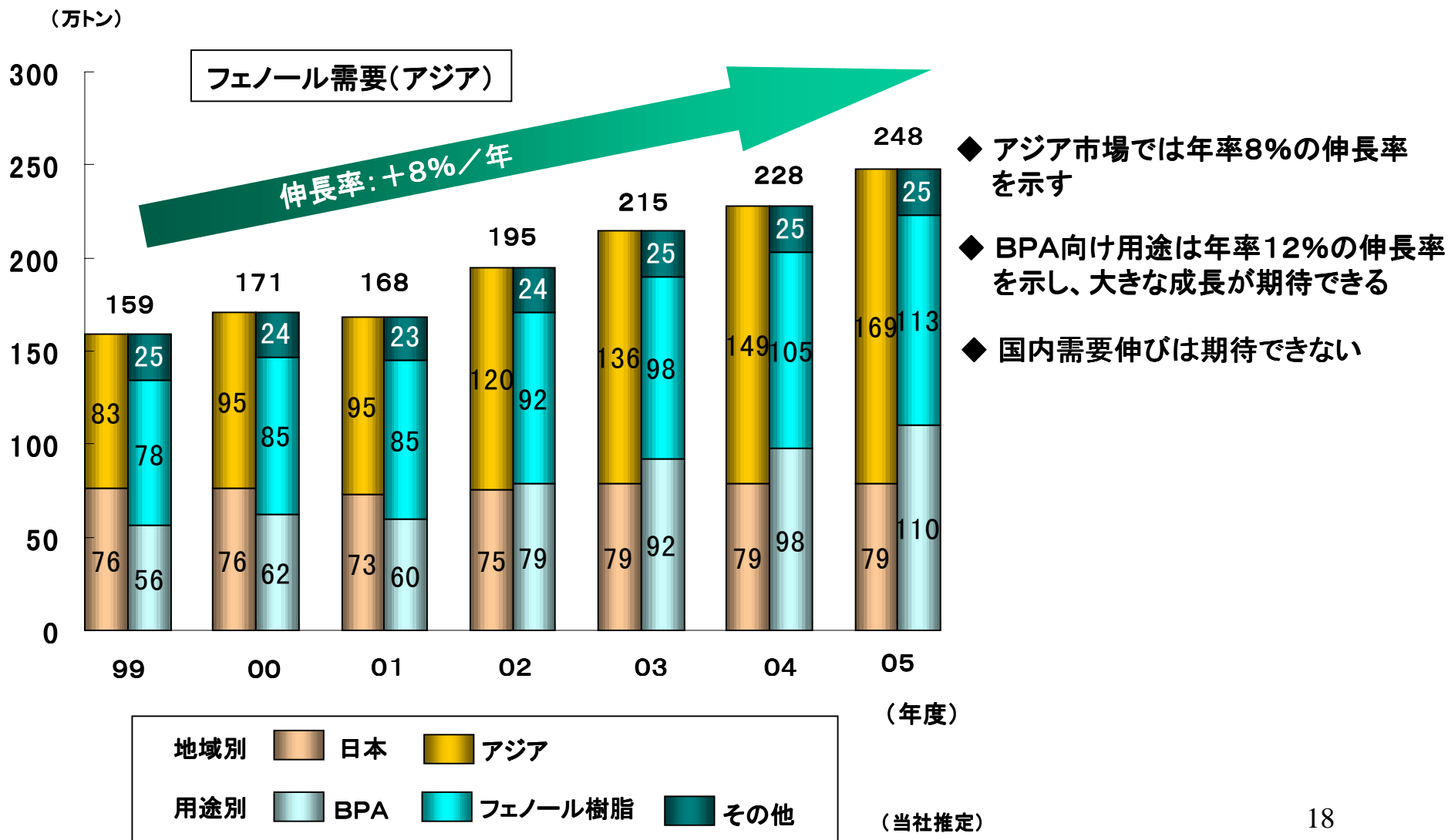
三井化学 “フェノールツリー”



◆フェノール誘導品は、多岐にわたり、化学産業の重要製品群となっている

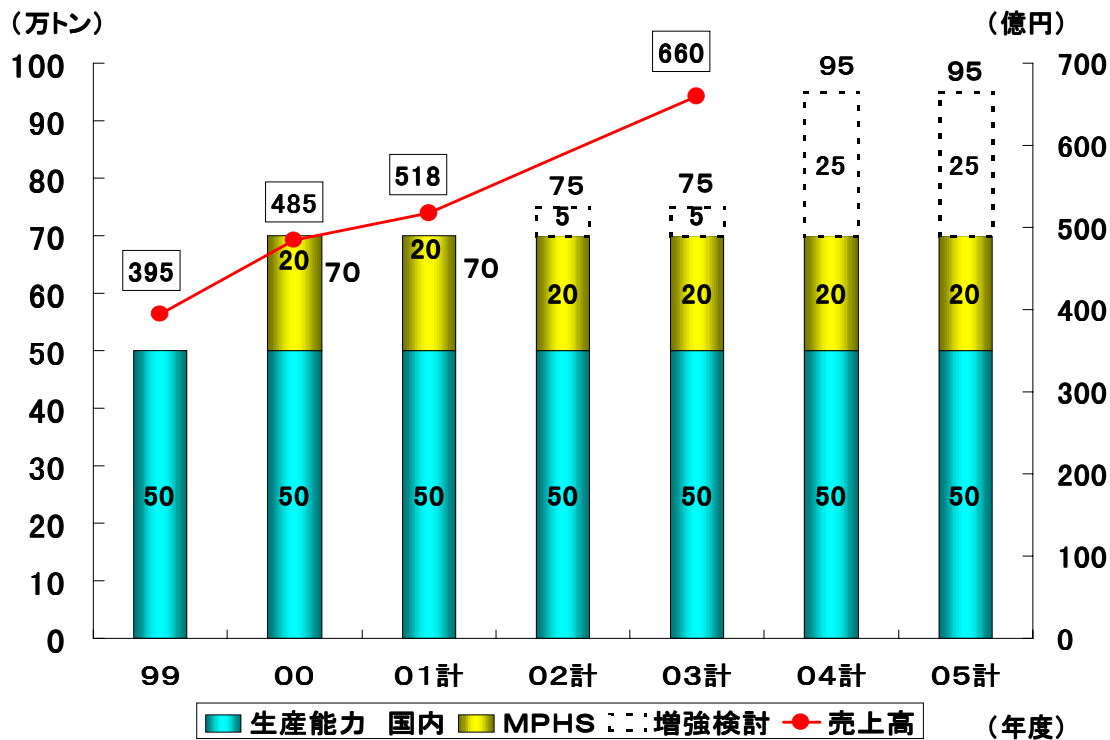
◆三井化学はその誘導品のほとんどを自社または関係会社で展開しており、フェノール系事業全体の一貫戦略展開による基盤強化を実現している

今後アジアのBPA向け需要の伸びが期待できる



BPAの需要拡大に対応したフェノールプラントをシンガポールに建設

フェノール生産能力と売上高

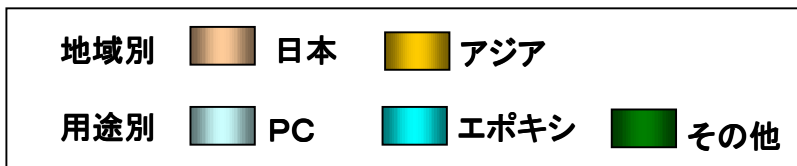
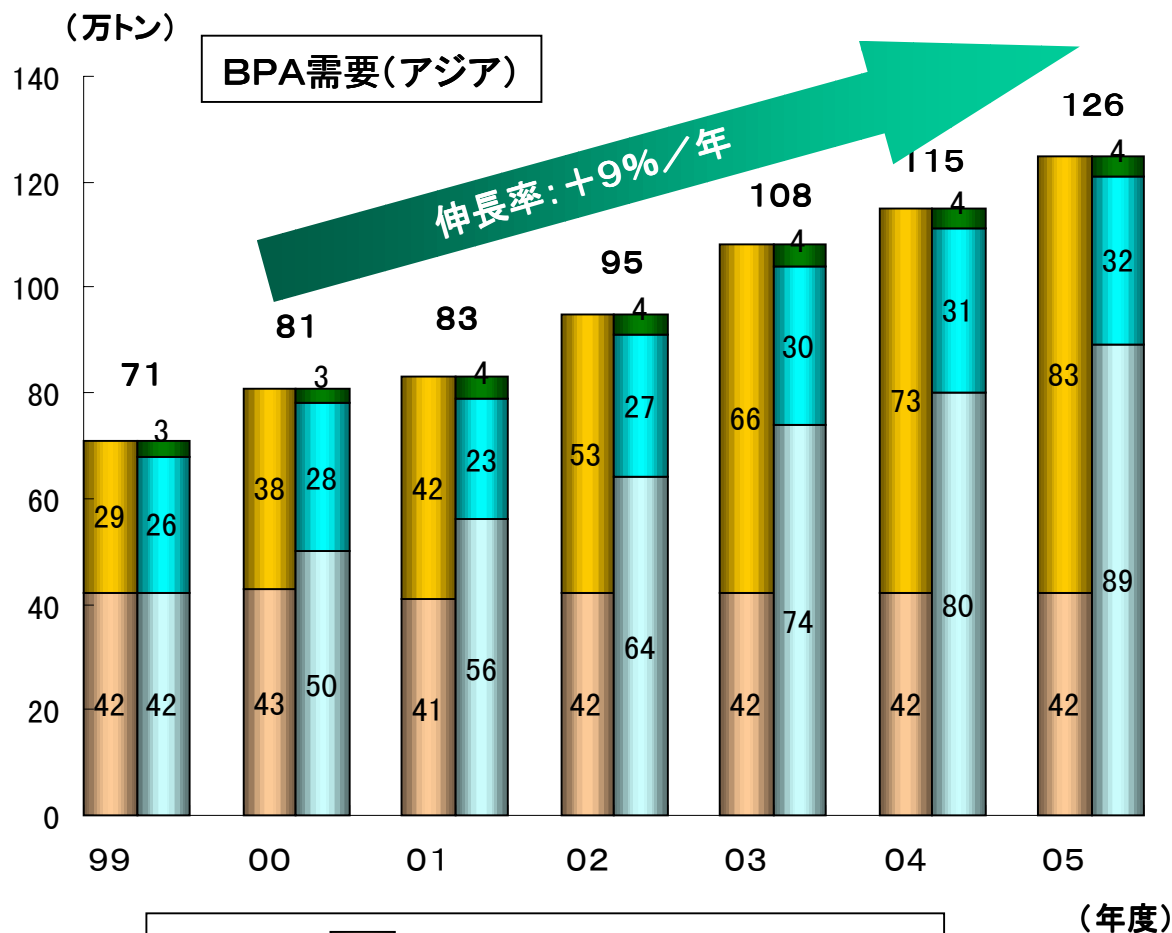


- ◆ BPAの需要拡大に対応したフェノールプラントをシンガポールに建設
- ◆ フェノールの生産能力は70万ト/年 (増強後は75万ト/年)で2位以下を大きく離し**アジアNo.1**
 - ・2位グループの南亜、三菱に対する相対シェア3.5
 - ・アジアでの総生産能力の**38%**
- ◆ 売上高は年11%で拡大する

◆BPA

アジアのポリカーボネート(PC)需要に対応した
シンガポールでの供給体制でアジア市場を獲得する

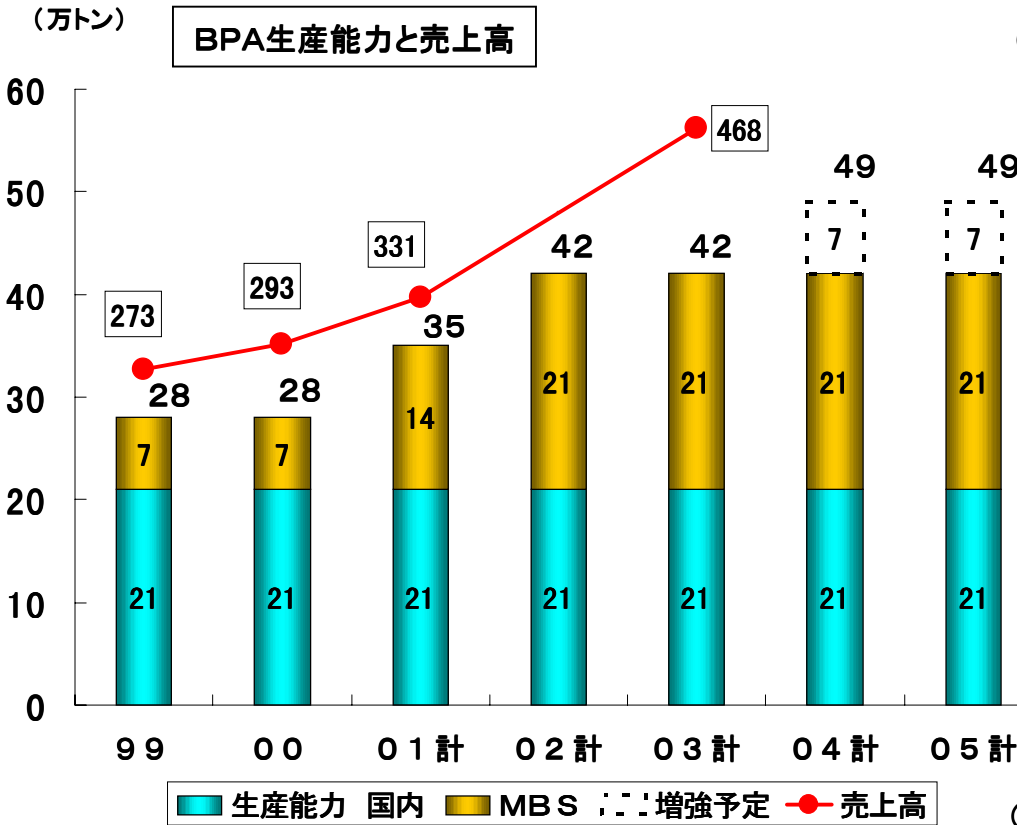
今後アジアのPC向け需要の伸びが期待できる



- ◆ 日本を含めたアジア市場では年率9%の伸長率を示す
- ◆ ポリカーボネート向け用途は年率13%の伸長率を示す、大きな成長が期待できる
- ◆ 国内需要伸びは期待できない

(当社推定)

PC需要に対応し、シンガポールでの能力増強



- (億円)
- ◆ アジアのPC需要に対応した増強計画
 - MBSでの能力増強
 - I 期：7万トン／年(99年度)
 - II 期：7万トン／年(01年度)
 - III 期：7万トン／年(02年度)
 - ◆ BPAの生産能力は42万トン／年で2位以下を大きく離し**アジアNo.1**
 - ・2位グループの南亜、三菱に対する**相対シェア2.1**
 - ・アジアでの**総生産能力の32%**
 - ◆ BPAの売上高は年17%で拡大する

◆PTA

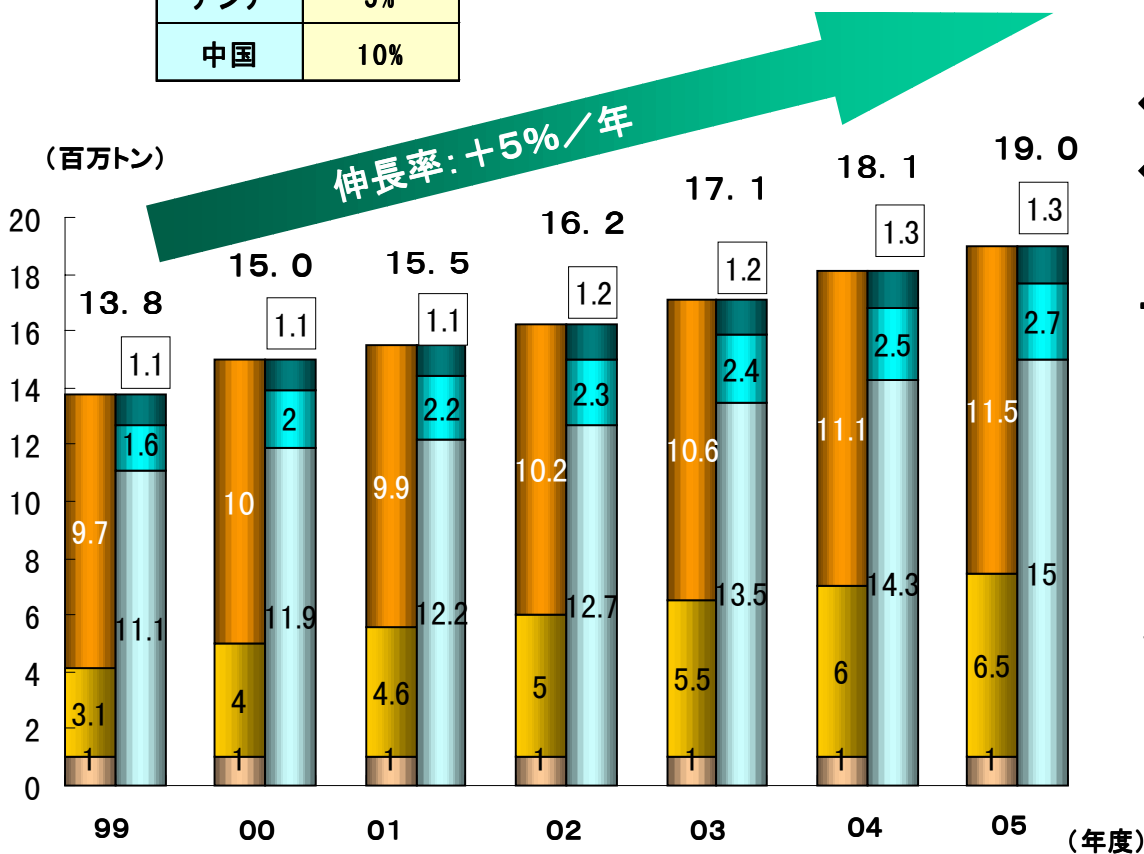
技術力、コスト競争力でアジア市場を獲得する

急成長するアジア市場の獲得を目指して

需要伸長率(00~05)

アジア	5%
中国	10%

PTA需要(アジア)



- ◆ アジア市場では年率5%の伸長率を示す
- ◆ 00~05におけるアジア需要増4百万tの内、中国が60%(2.4百万t)を占める

・PTA需要 —アジア全体 05年:19百万t
(対00年+4.0百万t)

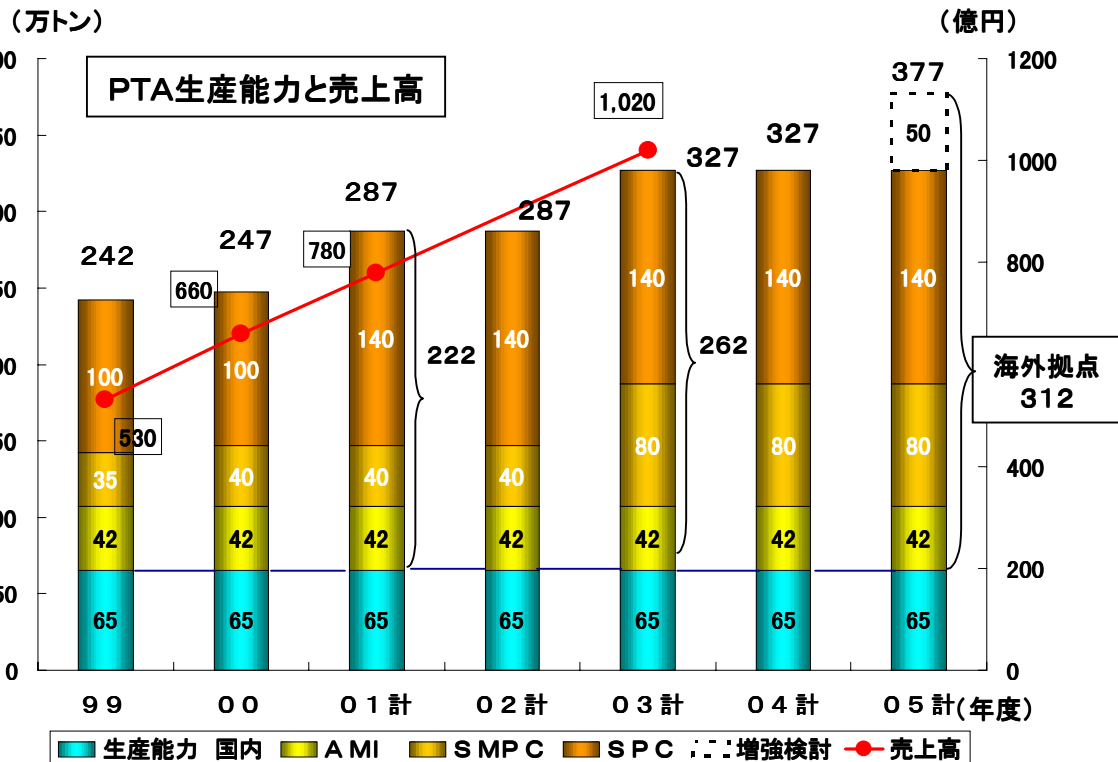
—中国 05年:6.5百万t
(対00年+2.4百万t)

◆ 2001年度でPTA用途のうち、繊維用途は約80%

地域別	日本	中国	その他
用途別	繊維	ペットボトル	フィルム他

(当社推定)

アジア需要を対象とした供給体制



◆アジア外販市場にてトップグループの地位を確保

- ・日本 : 1位 (48%)
- ・韓国 : 1位 (63%)
- ・タイ : 1位 (54%)
- ・インドネシア : 2位 (36%)
- ・中国 : 2位 (14%)
- ・パキスタン : 2位 (27%)
- ・アジア全体 : 3位 (12%)

◆特に最大の成長市場である中国外販市場において、No. 2のシェアを確保

◆不足バランスとなる2001年以降における各拠点の拡充計画

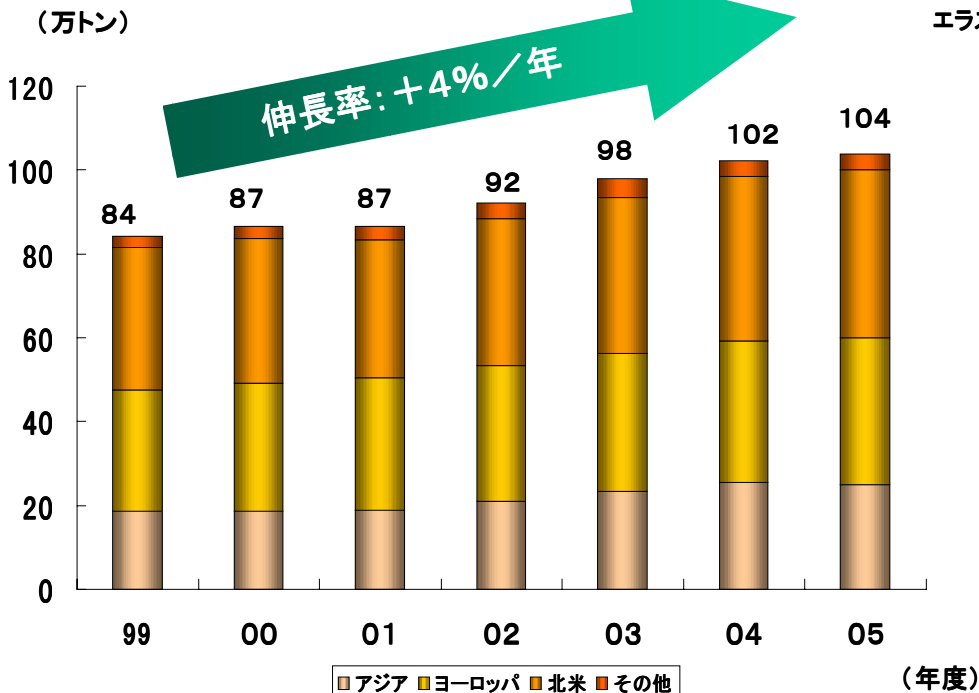
- ・2001年 SPCによるSGC買収(00年12月) (+40万t)
- ・2003年 SMPC No.2 増設(02年10月完工) (+40万t)
- ・2005年 検討中: 中国 新規 (+50万t)

◆技術力、コスト競争力、タイムリーな海外での生産拠点増強により、トップグループとしての地位を確保している

◆エラストマー
技術力、市場開発力で世界市場を獲得する

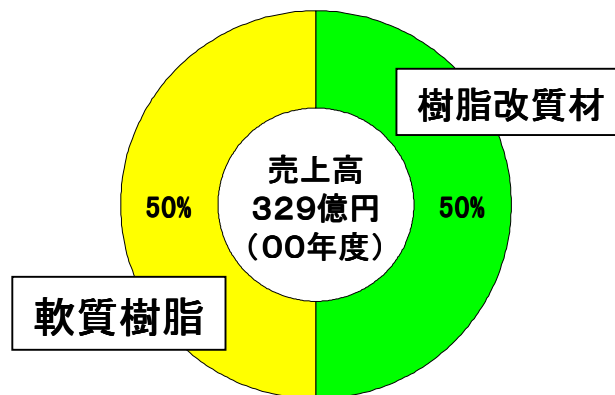
用途は樹脂改質材と軟質樹脂

エラストマー世界の需要



エラストマー

- タフマー 高機能性樹脂改質材、軟質樹脂
用途: ポリオレフィンフィルム改質
自動車バンパー改質
- 三井EPT 軟質樹脂(合成ゴム)
用途: 自動車部品(窓枠ゴム部品等)
- ビューロン 軟質樹脂
用途: 冷温水パイプ
- ミラストマー 軟質樹脂
用途: 自動車部品(ドア表皮材等)



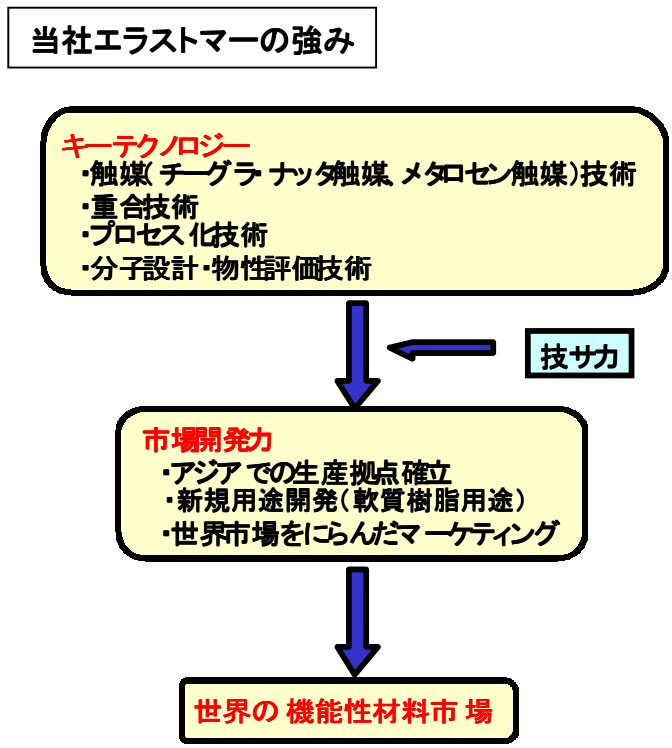
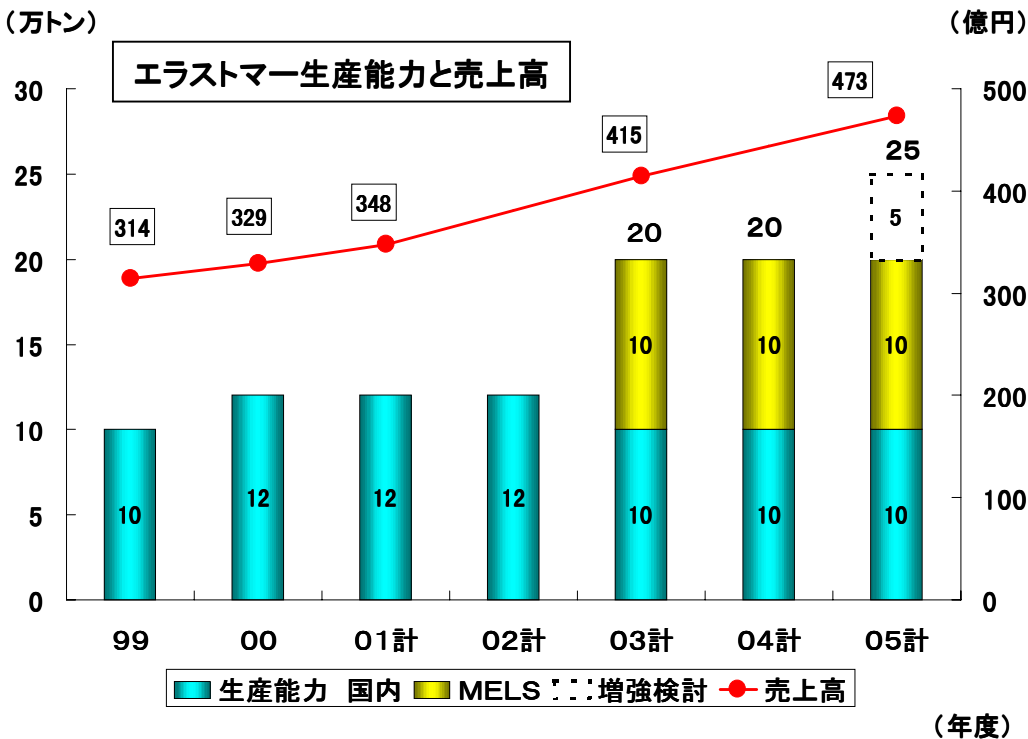
(出典: IISRP)

◆ エラストマーの市場は世界で年4%伸長

◆ 三井化学のエラストマーはポリオレフィン系の柔らかいゴム状樹脂からなる

◆ 用途は主としてポリオレフィンフィルム向けの樹脂改質材と、自動車部品を代表とする軟質樹脂

技術力で世界の機能性材料市場を獲得する



- ◆ タフマーを中心としたエラストマープラントをシンガポールに建設
(MELS: 2003年営業運転開始、10万トン/年)
- ◆ MELS稼働後は国内の生産能力は10万トン/年(市原工場)
- ◆ エラストマーの売上高は年8%で拡大する

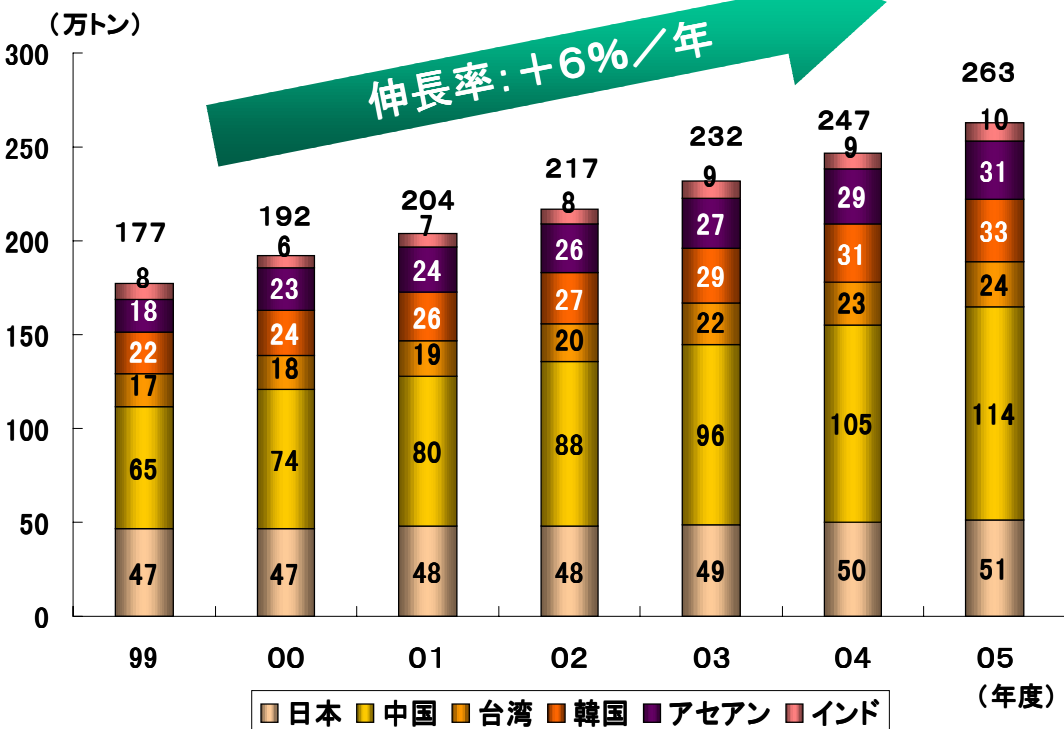
- ◆ キーテクノロジー(触媒技術と重合技術)、市場開発力を武器にして、世界の機能性材料市場をターゲットとする

◆ウレタン

三井武田ケミカルの設立により、
アジアでの存在感をより確固たるものにする

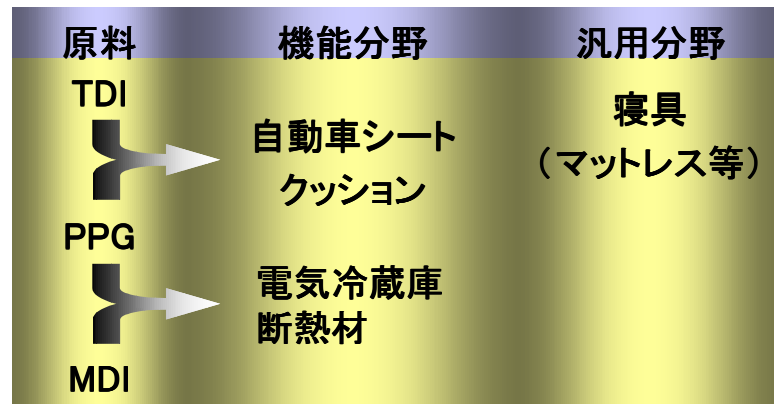
高成長が持続するアジア地域をターゲットにする

ポリウレタン需要(アジア)



(当社推定)

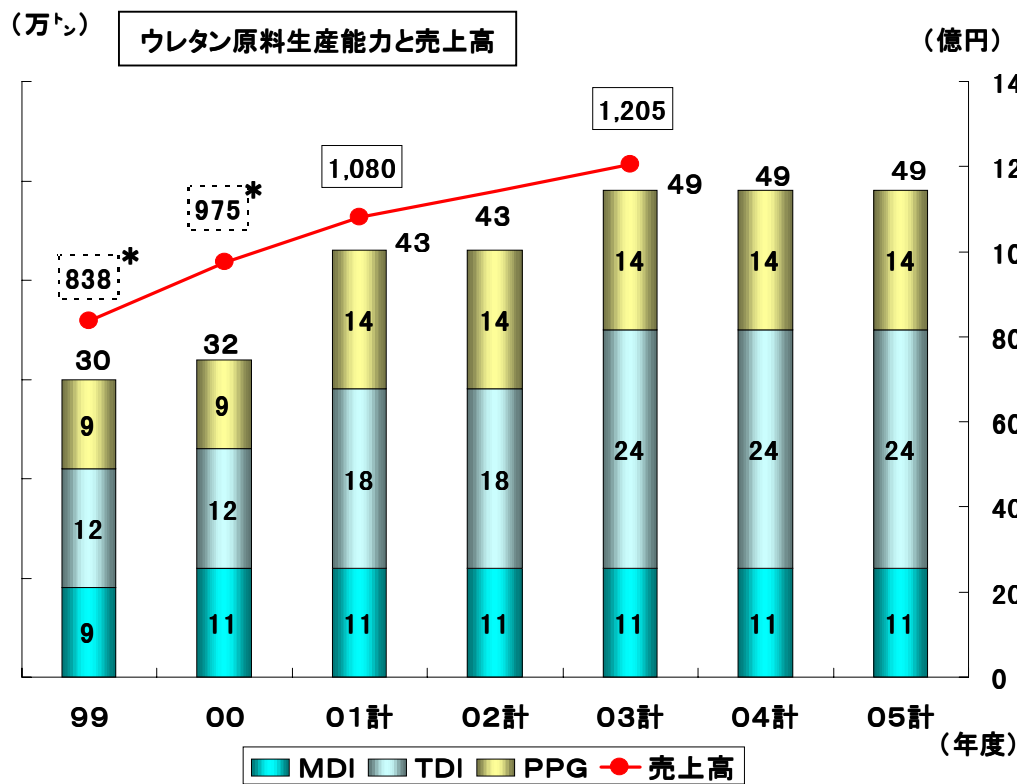
ポリウレタンの用途



◆ アジアのウレタン市場は年6%で拡大

◆ 特に中国は年9%で市場が拡大

タイミングの良い設備投資でアジアトップの地位を確保する



◆ アジアのトップの地位を確保

- 1位 三井武田
- 2位 Bayer
- 3位 Dow

◆ 世界でのトータル生産能力シェア

- 1位 Bayer
- 2位 Dow
- 3位 BASF
- 4位 Huntsman
- 5位 三井武田

◆ タイミングの良い設備投資

TDI: 03年度鹿島にて+6万トン増強

◆ 売上高は 00年→05年の間4%/年で拡大する

拡大する

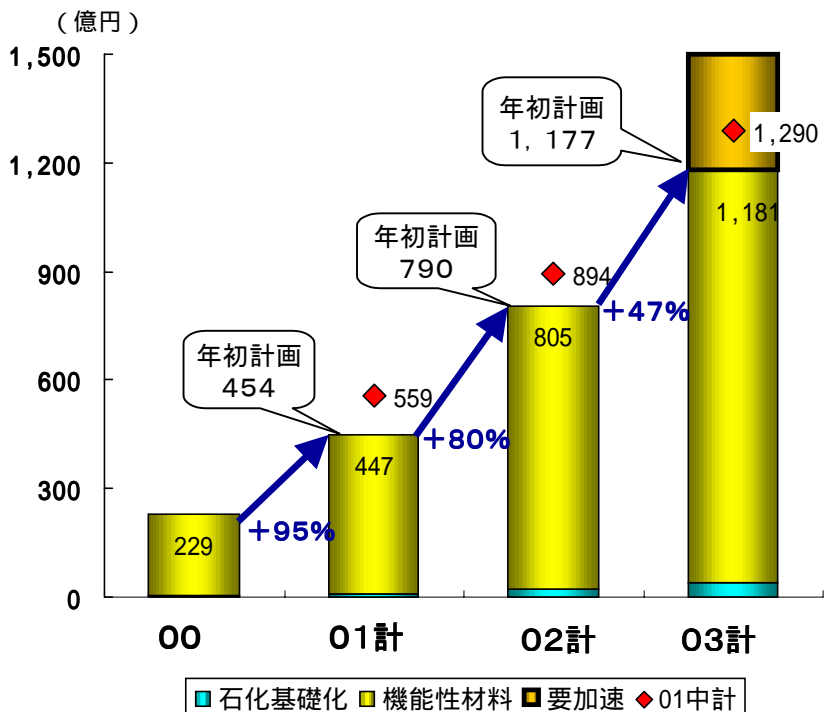
* 99、00年度の売上高は、武田の売上を含む。

Ⅱ－3. 新製品開発

新製品売上高は着実に伸長

新製品売上高

01中計目標値: 1,500億円



(年度)

新製品内訳

分野	03年度売上高 (億円)	代表的な新製品	03年度売上高 (億円)
情報・通信	316	・PDP用光学フィルター	40
		・耐熱基板材料	15
		・感熱POSラベル用トップコート材	15
生活・文化	492	・ウレタン包装用接着剤	70
		・殺虫剤「スタークル」	40
		・ガラス長繊維強化材料	30
		・不織布(クロスライクバックシート)	20
		・新規機能性ポリオール	20
環境	188	・新ホフマンPAM	40
		・生分解性ポリマー「レイシア」	30
その他	185	・機能性ポリマー(アレン、アペル)	80
計	1,181		

注) 青字は既に上市している製品を示す

◆景気低迷が長期化する懸念のなかで
足元を固め、
中長期の更なる拡大・成長戦略を堅持